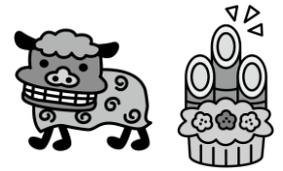


* 給食だより * 1月

毎月19日は食育の日
入間市立藤沢東小学校



全国学校給食週間！

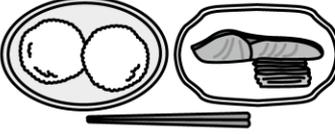
日本の学校給食は、明治22年、山形県鶴岡町(現:鶴岡市)の私立忠愛小学校で提供されたのが始まりとされています。その後、各地に広まったものの、戦争による食料不足で中断されてしまいました。

戦後、子どもたちの栄養不足を改善するため、昭和21年にアメリカの支援団体「LARA(アジア救済公認団体)」から、給食用物資の寄贈を受けて、翌年1月から学校給食が再開されることになりました。昭和21年12月24日に、東京都内の小学校で給食用物資の贈呈式が行われたことから、この日を「学校給食感謝の日」としましたが、昭和25年度からは、冬季休業と重ならない1月24日～30日までの1週間を「全国学校給食週間」とすることが定められました。本校では、1月21日(火)～24日(金)の1週間を給食週間とし、給食委員会の児童による集会での発表、1～4年生は調理員への手紙のプレゼント、5年生は給食の献立作成、6年生は給食にかかわる川柳作成などの取り組みを実施します。



全国学校給食週間を通して、学校給食の意義や役割などを皆さんに知ってもらい、学校給食についてあらためて考える機会にしてほしいと思います。

学校給食の移り変わりを見てみよう！

明治22年	戦後(昭和20～30年代)	現在
		
 <p>私立忠愛小学校で提供されたとされる給食。</p>	 <p>支援物資の脱脂粉乳や缶詰、小麦粉などを使った給食。</p>	 <p>地域でとれる旬の食材を取り入れ、郷土料理や行事食、世界の料理など、食育の教材となる給食。</p>

給食には、たくさんの学びが詰まっています！

学校給食は、「学校給食法」に基づき実施されています。単なる空腹を満たすためのものではなく、教育の一環として位置付けられており、給食を通してさまざまなことを学ぶことを目標にしています。

